

ダイズ・アズキの放射性セシウム吸収に品種間差はない

福島県農業総合センター 作物園芸部畑作科

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質の吸収量の解明

研究課題名 畑作物の放射性物質の吸収量の解明

担当者 平山孝・竹内恵・慶徳庄司

I 新技術の解説

1 要旨

県の緊急時環境放射線モニタリング検査にて、2012年産ダイズおよびアズキに基準値(100Bq/kg)を超過したものが検出された。これを受けて、放射性セシウム吸収にダイズ・アズキの品種間差があるかどうかを検証した結果、いずれも差は見られなかった。

- (1) 県農業総合センター内の同一ほ場(土壌の放射性セシウム濃度:1,769Bq/kg)で栽培したダイズ9品種(普通ダイズ3品種、黒豆3品種、青豆3品種)において、子実の放射性セシウム濃度に有意な差は見られなかった(図1)。
- (2) 県農業総合センター内の同一ほ場(土壌の放射性セシウム濃度:1,080Bq/kg)で栽培したアズキ5品種において、子実の放射性セシウム濃度に有意な差は見られなかった(図2)。

2 期待される効果

- (1) 普及指導上の資料として活用する。

3 活用上の留意点

- (1) 福島県内で主に栽培されているダイズ・アズキ品種についての試験結果である。

Ⅱ 具体的データ等

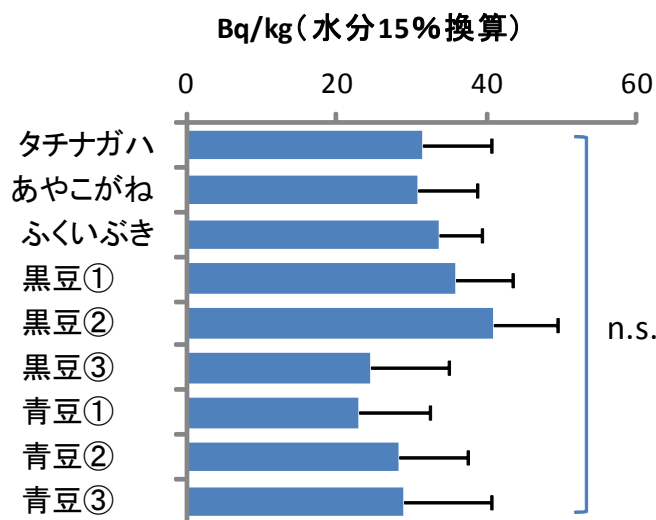


図1 ダイズ各品種の放射性セシウム ($^{134}\text{Cs}+^{137}\text{Cs}$)濃度

注) 土壌の放射性セシウム濃度 1,769Bq/kg

土壌の交換性カリ含量 17.4mg/100g

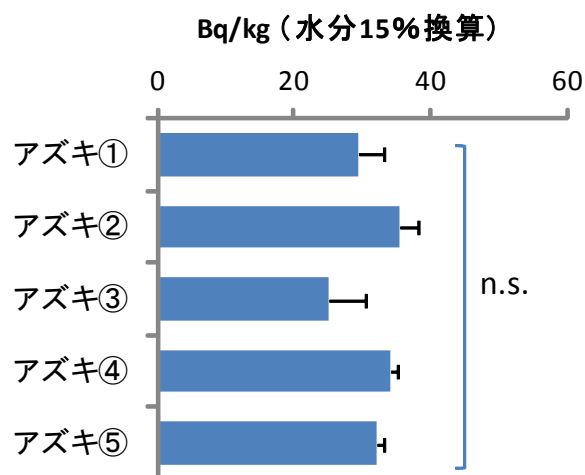


図2 アズキ各品種の放射性セシウム ($^{134}\text{Cs}+^{137}\text{Cs}$)濃度

注) 土壌の放射性セシウム濃度 1,080Bq/kg

土壌の交換性カリ含量 9.9mg/100g

Ⅲ その他

1 執筆者

平山孝

2 実施期間

平成25年度

3 主な参考文献・資料

(1) 平成25年度センター試験成績概要